

酒々井町 郷土研究会 報

第 9 号

昭和 53. 12. 25 発行
酒々井町郷土研究会 総務部



8 町外
史跡めぐり

供華のなき劍聖の墓落葉中
(小別当松風)
劍聖の碑に供へあり柿二つ
(宇佐見春坡)

成田山公園に隣接する 成田
高枝の裏山 せまい石段と登り
つめた雑木林の中に 小野派一
刀流の流祖 小野治郎右衛門忠
明と同一代忠常のニ基の五輪塔
がたっている。訪れる人もまば
らな山中に立ち かつて柳生流
とともに將軍家指南をとつめた
隆盛の歳月を想ひ 成田市寺台
の地頭として三百石と賜わりこ
の地に没す 近く永興寺には
忠明夫妻の木像が伝えられてい
るといふ。

幽学の遣せし畦の草紅葉
草風つけてもどりぬバス席
(松風)
幽学の田もまじまじと草花れて
休耕と碑と語らいぬ冬木中
(和一甫)
どこといふ懐古とつむし雨ふる
落葉踏む種ろれぞれに音とがふ
(春坡)

大原幽学の遺跡にて

江戸時代後期の農村指導者
大原幽学は尾張藩士の二男に
生まれ 十八才の時不逞な劍
道師範を切り捨てたことか
家を出て浪人し 神道・儒教
などを学んだ。天保五年下
総に東遊し 現 千歳町長部の
名主遠藤氏に身を寄せ当時
貧乏にあえぐ長部村の立直し
を決意した。



幽学の業績は
一性理学による精神教育。
一世界初の産業組合ともい
う「先祖株組合」とつくる。
一消費組合とつくり農具や日
用品と共同購入する。

「作事割帳」と作り年間作業計
画を立て「宵相談」により日々
のこまかく指導する。
一全村の土地の交換分合「耕地整
理」住定の移転を行い 自宅の前
に自分の圃場を 後背に山林を
持たせて経営をさせた。

この地割の遺構は今も
旧宅跡南方に整然と残っており
りその大遺業に皆々感嘆らん声。

幽学の努力も封建の衣に素直に
認められる事は出来ず 幕府役人
に捕われること六年余 放たれて
帰ってみると村人は眼前の歡樂を
むさぼり その故えを忘れし
たっている者の姿に悲しみ 其の者
たらと諫めるため遺書を残して割
腹して果てた。その短刀には「難
舍者義也(すてがたきはざなり)」と刻
まれてあった。

小雨降る中 山の中腹まで登る
と幽学自身が設計し住居兼放導所
として信奉者たちが建てた旧宅
(ちょうどこの日は消毒の日に当って見学せず)
遺品保存録では名主の子孫遠藤氏
(現在館表とされて)の説明と聞く。
続く裏山に大原聖殿と抜け 都中
幻の花「アキノキノソ」(りんどう)「ア
キノタムラソ」や「ゴンスイ」の赤い実
と賞で一つ山と降りる。

飯岡助五郎の墓(光台寺)
狭客の墓大輪の雨の供華
(松風)
本堂は幼稚園兼ぬ時雨寺
助五郎の墓ととりまき時雨寺
(春坡)

一面のブロッコリー畑(カリフラワー)
の中を抜け講談 浪曲で馴染の悪
玉 飯岡の助五郎の墓所を訪ね
る 光台寺に入ると幼稚園の児童
がかわらがある顔を出す 助五
郎はカサと志して江戸に去ら
ぬ夫として飯岡に手紙を博徒とし
て又綱元としても精を出し 通業
の振興 護岸工事をするなど地元
の信頼も厚く十手 捕縄とあずか
る身分にまでにもなった。etc.

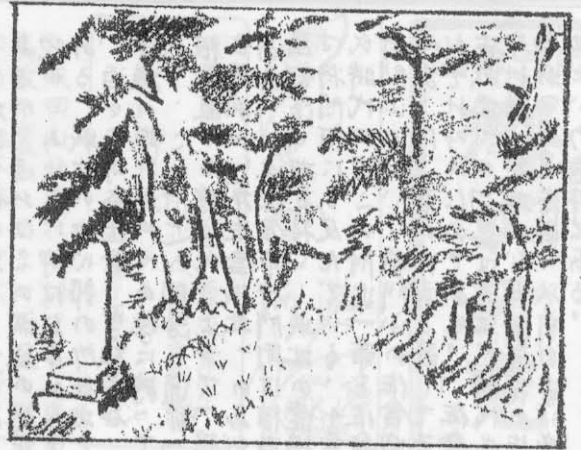
玉崎神社
今にのみ持めり神は留守はがら
時雨介とし連れ義侠神と云ふ
(春坡)

西くは日本尊が東征のとき
戦勝と祈って海神を祀り 征東
軍に徒つていた八木連右衛門と
奉仕させたのが始まりといふ。
武神として古くから士庶の崇
敬を集めて崇え 源義家の宝剣
奉納(二〇八八年) 千葉常胤の
武運長久祈願(一九二二年)な
どが伝えられている。

社殿の裏手には江戸末期のこ
ろまでクスノ木に松が着床した
夫婦木 御神木があり 緑
結びの木として広く知られたと
いふ。

懸楠にとまわの松のより馴れて
千代と契りし事のかしこす
文化三年(一八二六)当社に参拝し
た平田篤胤が詠んだ歌を刻んだ
石碑が建てられていた。

忽然と霧雨岬の景色む (春坡)
踏みしめて奈波を覗く冬海 (一甫)
冬 海霧の深きに舟さしむ (一甫)
海霧吹き上げまく 刑部岬 (松風)
刑部岬から飯岡港を霧の中から
望みイソギクの香に送られ帰路
につく (青木朝次)
バス止りまきま 杖乃魚買に競う (春坡)



「佐倉風土記」に「路馬山城(後田)市下方面は、輔胤、考胤、昌胤の隠居城である」というので、千学集の「文明十六年(二四八四)考胤佐倉の地を取らせらる」という意味は、輔胤隠居後、考胤が本佐倉城を引継いだということか、或は本格的な築城と考胤が行ったものと考えられます。路馬山城と本佐倉城の構張りが大変似たものであることなどから推察されます。

この頃千学氏は房洲方面、帝臣方面のついでと受け、軍事上政治の上の地の利と考慮して、本佐倉城と本城と定めるに至ったものでしょう。

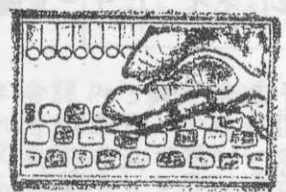
考胤が佐倉の地を取った文明十六年から六年後の延徳二年に「千学集」を立てた「延徳二年」という千学集の記述は、本城の城下の整備はこの頃手をつけ始めた事を示すものかも知れません。

「酒々井町年中行事」(鶴岡)に「鎮守祭礼は佐倉将門山に於て二日であったが、今は十月十五日になつた」とあり、千学集「録」にも「八幡宮将門山の東」とあり、又何時に建つたものと詳しせず、佐倉院を宮寺とする、毎年八月十二日に酒々井の旅所に神行し、走馬祭礼ありとあります。

これらの記録は考胤が八月十二日と「所」の立て始めとわかれ、特に「走馬」といふ行事は、永正六年(一五〇九)連歌師宗長が「津登の東路」といふ東国紀行の文中に「千学氏の妙見祭りを見学し、三百匹の馬による早馬(競馬)」と、又延年の儀と見物した記録があり、この記事の年代は、考胤が永正二年(一五〇五)に卒し、その子、勝胤の時代であり、その子、勝胤の形も本佐倉に移され、考胤の所を立てたのが、八月十日、期して行われるようになったものが、後世まで継承されたものと思われ、

千学集は、康胤の庶子で十九代家督となつた「岩橋殿」と称し、岩橋城(推定酒々井下岩橋城山)に城居してあり、この地方に大変ゆかりがあり、この地です。千学集の基盤の上、考胤が本格的な本佐倉城の築城に当つたと見られるのが、各々

郷土研回誌



埼玉 10/1

◇待望の県外史跡めぐり
◇雄略天皇の名が判読され世間の注目をあびてる最中のさきたま風土記の丘は、休日返上の大にぎわい。
◇川越喜多院。遠州流の庭園とのぞき江戸大奥御殿の生活をかいま見る。湯殿、かわや(便所)いとどかし!
◇吉見の百穴。百穴は(ひゃくけつ)にあらず(ひやくあな)であると同様の教育長カ説。ひかりごけと捜し求めることに終始したが認められず。横穴式古墳の規模、酒々井カンカンムロを比べるコロボックル人の住居跡なるか?との説には夢があり楽し。

◇鈴木貫太郎記念館
宮中参内服、軍服をみても、そのお顔は、身一介のすまじ、偉大なる信念の輝けると思う。

会計報告

(収入)	
参加会費	118,500
{ 2500 × 47 }	
{ 1,000 × 1 (1x) }	
郷土研の	26,385
	144,885
(支出)	
鈴木記念館	735
瓜土記資料館	970
吉見百穴	3,430
森多院拝観	7,850
バス代	100,000
有料道	2,500
昼食代	20,000
菓子代	10,000
	144,885

◇見学地に不足はないが、時間わずか、もっと一箇所にゆっくり見たいの声?

古文書学習会(10/14)(11/18)
参加者の顔ぶれもやや定着して、終了「佐倉牧野馬日記」の解説にいたる。寛政二年の野馬御用日記では見られない、酒々井町郷土研のほころぎ、教養講座。望多教参加

町内 11/19

◇将門山史跡めぐりとハイキング
経胤寺へ上本佐倉神明神社
本佐倉城址をめぐり根古谷青年館にて昼食。更に城址5の空城、木屋を見学。将門町に至り浅井忠の屋敷跡、口の宮、桔梗塚等を見学
PM 3:00 現地で解散

◇「本佐倉城址保存会」が設立されて、地元の人達も大いに期待を寄せている。本佐倉城址の見学は有意義なものだ。



野草の会(10/22)(11/11)
秋のけしき、紅葉と漢菜と満喫しながら、史跡めぐりと兼ねて、ソウムの煎餅、お菓子が集まる。心の安らぎを集む。

新春七草かゆをたべる会

(第2回)

手の切れるような痛みをこらえてセリを摘み
 春の香を口いっぱい満たして新春一番の
 集いですが会場、食器等の準備のつごう上、35名
 位までにはしたいと思います。1月5日まで
 に教育委員会事務局まで申込み下さい

日時 1月7日(日) 午前11時より
 場所 青年研修所
 会費 500円

▲尚台所を手伝って下さる方今年もよろしく

昭和五十四年度郷土研究会総会のお知らせ
 好評のうちに無事終ろうとしております
 好員のうち百六十五名(十月現在)と着実に
 増え、事務局一同喜びの悲鳴をあげ
 と共に、より内容豊かな会の運営に
 るため、頭をかかえているのも事実です
 昭和五十四年度郷土研究会総会と
 下記の通り開きます。たくさんの出席
 を得て、たくさんの意見や希望、又反
 本会を動かすエネルギーとして燃焼
 ぐ、又審議終了後はささやかなら
 物と準備して茶話会の用意もいたして



1月27日 PM 1:00 ~ 青年研修所

- 議題
- 53年度収支決算書の承認
 - 54年度予算計画の承認
 - 54年度収支予算の承認
 - 役員の変更
 - その他、役員と認められた事項
- ◎ 茶話会
 (遅れても構いません)



史跡見学会の会計報告 11月4日、17日

(収入)	会費	51 × 1,000	51,000
	郷土研のり		470
			51,470
(支出)	幽写資料館	51 × 120	6,120
	弁当	63 × 250	15,750
	菓子代	63 × 200	12,600
	御礼		1,000
	バス代	2 × 8,000	16,000
			51,470

以上報告いたします 細川

郷土研行争計画

昭和54年	1月	2月	3月	備考
野草の会	1/7 七草かゆを食べる会 AM 11:00	未定	未定	会員の希望をきいて進めます。
古文書学習会	1/20(土) PM 1:30 ~ 青年研修所	2/10(土) PM 1:30 ~ 青年研修所	3/10(土) PM 1:30 ~ 青年研修所	途中からでも無理なく参加学習できます
石仏調査	寒のてお休みのしよう (相京)	2/18(日) 酒々井町 青年研修所 PM 1:00	未定	石仏に興味をもっていらっしゃる方たくさん集まればー!
町外史跡見学会	3/13 と 3/16 の予定 (バスの都合で変更があるかもしれません) 行先 上総国分寺跡(市原) ~ 所願寺阿弥院堂(厩指定) ~ 大多喜城(総南博物館) etc. 集合 役場 8:30 会費 ¥1,000			見学地について希望があればどなたも申し入れて下さい (96-1171 相京)

